

診療科の枠を超え「足病医」登場

診療科の枠を超え、様々な足のトラブルに対応する「足病医」が増えてきた。専門外来を開設する病院や「足病専門」をつたう診療所が各地に登場。高齢化の進展で足のトラブルに見舞われる患者の増加が背景にある。欧米では古くから定着していたが日本ではなじみが薄かった。昨年、学会が旗揚げされ、一步を踏み出した。

「歩くのが楽になりまし
た」。福岡市の六本松足と
心臓血管クリニックに2カ
月おきに通院する市内の無
職、近藤道夫さん(仮名、
75)が竹内一馬院長に笑顔
を見せた。3年前から糖尿
病で足の血流が悪化し、痛
みで歩くのもつらい状態と
なり「(足を) 切断しても
おかしくなかった」(竹内
院長)。

同クリニックを2018
年に開業した竹内院長は
「足のトラブルや悩みを抱
えた患者はどの診療科にか
かればいいのか分からずに多
くの診療科を回る難民状態
となりがちだ」と指摘する。
「重症化して手遅れになる
患者を減らそうとワンスト
ップで質の高い医療を提供
している」

足病医は外反母趾(ぼし)
や扁平(へんぺい)足など
の変形、タコ、ウオノメ、
水虫など皮膚のトラブルな
どをカバーするほか、深刻
な事態につながるかねない
疾患の治療にも当たる。特
に血流が悪化する末梢(ま
つしよ)動脈疾患や、そ
れが重症化した重症下肢虚
血は治療が難しく、組織の

足のトラブル 解決へ一歩

壊死(えし)が進めば切断
に至る。動脈硬化を背景と
した生活習慣病の一つで高
齢化が進む中で患者数が増
えている。

これらの疾患の治療が年
間100件を超す佐賀大病
院(佐賀市)は糖尿病内科、
腎臓内科、循環器内科、形
成外科等の医師ら約30人が
週1回集まり、治療方針な
どを検討する。上村哲司診
療教授は「予防にも力を入
れ、糖尿病の疑いのある人
向けに、薬を歩けて足に傷
をつくらない『予防靴』を
メーカーと共同開発してい
る」という。

「健康寿命を延ばし元氣
に歩き続けることをサポー
トしたい」と語るのは「足
と歩行の診療所」(東京・
大田)の吉原正宣院長。痛
み、しびれ、腫れなどを訴
えて月に平均800人が受
診する。ドイツ、米国での
研修経験を生かし、治療だ
けでなく歩き方や靴、イン
ソール(中敷き)の選び方
も指導する。

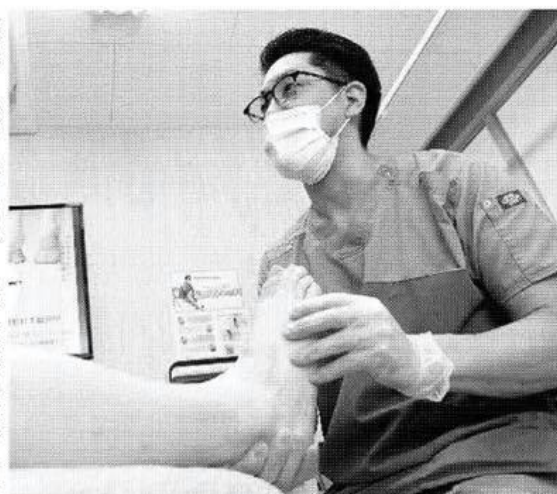
高齢化進み患者増える

足病医が扱う主な足の疾患

整形外科関連	アキレス腱(けん)炎、スポーツ足変形、 外反母趾、足根管症候群、足腱鞘炎、 下肢足痛、扁平(へんぺい)足など
形成外科関連	糖尿病性足壊疽(えそ)・潰瘍など
皮膚科関連	タコ・ウオノメ・イボ、足皮膚乾燥、 うつ滞性皮膚炎、足・爪白癬菌、 陥入爪(巻き爪)など
循環器内科関連	閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓、 重症下肢虚血など
血管外科関連	下肢静脈瘤(りゅう)など
その他	痛風

医を擁し、多彩な足の疾患
を診る。患者の4分の3は
女性で外反母趾が多い。桑
原靖院長は「足は全身の4
分の1に当たる大小52個の
骨で構成される精緻な器
官」として「耐用年数は約
40年。加齢とともに崩れた
アーチ構造が様々な足のト
ラブルを生み出している」
と説明する。

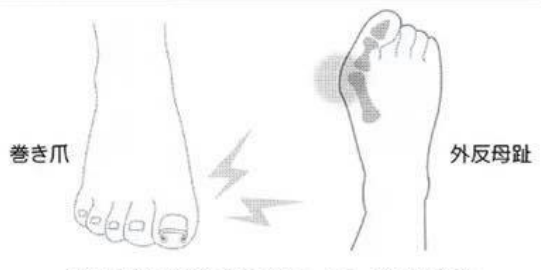
東京都世田谷区の下北沢
病院は「北米型足病医療の
導入」を掲げて14年に開業
した。足病総合センターに
は各科の専門医のほか、看



患者の足を診る吉原院長(東京都大田区)

護師、リハビリスタッフ、
義肢装具士ら多職種が連携
し、「糖尿病足の傷外来」
「フットケア外来」「むく
み外来」などの専門外来も
設ける。

順天堂大順天堂医院(東
京・文京)は19年4月に大
学病院としては日本初の
「足の疾患センター」を開
設した。足病に精通した看
護師が初診患者を問診し、
様々な分野の専門医に振り
分ける。組織が壊死し、変



(注)順天堂大学順天堂医院のホームページを基に作成

欧米では早くに専門化

米国では約100年前に医師、歯科医
師とは異なる足病専門医の「ポダイアト
リスト」という国家資格ができ、現在約
1万5000人を数える。英国やカナダ、
オーストラリア、ニュージーランドでも
独立した専門分野として確立している。
日本は明治の文明開化まで靴を履く習
慣がなかったこともあり、欧米のような
足病学は普及しなかった。近年、人口の
高齢化や糖尿病患者の増加で足の切断を
余儀なくされる人も増えた。2009年
に日本下肢救済・足病学会が発足した。
看護師らが足病の予防に取り組みむ日本
フットケア学会(03年設立)と、治療に
重点を置く日本下肢救済・足病学会が19
年7月に統合し、「日本フットケア・足
病医学会」が誕生した。

理事長の寺師浩人神戸大教授による
と、会員は医師、看護師、リハビリテ
ーション専門職、義肢装具士など約500
0人。「今後、中国などアジア諸国で足
病の患者が増えるのは確実。アジア人の
足を守る取り組みを主導したい」(同理
事長)と意気込む。

「足病医」は欧州にルーツがある。16
世紀ごろ、ヒールの高い靴を貴族の男性
も履いていたため足を傷める人が絶え
ず、治療にあたる専門家が生まれたとさ
れる。1900年以降、ドイツで足病学
の理論や技術が体系化され、「足の手当
て」を担う専門職「フスフレーゲ」が登
場。その後、医学に位置づけられて20
02年に足病専門医の国家資格もでき
た。

色した状態になる壊疽(え
そ)患者の血管の再生医療
など最先端の研究も誇る。
田中里佳センター長は「超
い」と話している。

に、フットケアから診断、
治療、さらに再生医療まで
加えて総合的に当たったり
高齡社会で増えていく足病
(編集委員 木村彰)